



No. **09**

Example Report

Builder:

菱田工務店

Notes:

佐久市 / C邸
家族構成 / 4人

ぶどうが成長し、実るように

A_アトリエ外壁に施したアンティークレンガは、提案された当初こそ抵抗があったが、森のアトリエがまずあって、それを抱くように母屋ができたというコンセプトストーリーに納得できた。それと反対側の子供部屋にあしらった十字窓もアクセントとして効いている。 **B_**森に溶け込むように立つ小屋をイメージした。竣工時から周囲の風景に馴染み、この先に待つ時間にも馴染んでいくだろう。 **C_**南に大きく開いた窓は、屋内を外の世界に向かって開き、外の光や風を内へと招き入れる。

住まいづくりで夫妻が叶えたかった夢の一つが、洋服をつくる仕事をしている奥様のアトリエを設けることでした。外壁にレンガをあしらった部分が、実は奥様の仕事部屋です。佐久に越して5年、この家に暮らして1年あまりですが、彼女の立っている「その人のための服」のファンになり、この山の上の小さな洋服屋さんまで坂道をたどるお客さんが多くいます。

住まいづくりで夫妻が叶えたかった夢の一つが、洋服をつくる仕事をしている奥様のアトリエを設けることでした。外壁にレンガをあしらった部分が、実は奥様の仕事部屋です。佐久に越して5年、この家に暮らして1年あまりですが、彼女の立っている「その人のための服」のファンになり、この山の上の小さな洋服屋さんまで坂道をたどるお客さんが多くいます。

森を背にしたその家は、構えにしても、素材の質感にしても、もとより八ヶ岳を見晴らすロケーションからして、小屋と呼びたくなる佇まいです。ただ、小さいながらも端正で、その簡素な趣には、家族や親しい人がここで過ごす時間の実りがにじみ見えます。

大きな開口とともに外観で目を引くのは、板張りの壁とレンガ壁が組み合わされていることです。後者で覆った空間が特別な場所でありそうで、でも前者がそれをふんわり包むように、全体が馴染んでいます。

「耳で建てる家」と
「その人のための服」と



DELAVIGNE HUT



D_大開口の窓からは八ヶ岳をパノラマで見晴らす。窓を全開にした時の開放感に、建坪の小ささを忘れてしまう。 E_暖房は松本市の丸山鉄工所製の薪ストーブ「イロリン」のみ。 F_キッチンに立ったときの眺めも素晴らしい。目の前の庭で育てた野菜やハーブもすぐ食卓にのせられる。 G_リビング後ろには横長の窓をつけた。ソファに寝ころんで見る森の眺めも素敵。 H_シンプルな造作キッチンがこの空間によく似合う。七輪をはめ込む穴もつくってもらった。

器は無垢でプレーンで
しなやかな方がいい

アトリエと展示室を兼ねた土間を挟んで母屋があります。仕事と暮らしのつながりを大切にしようと、一番手前にキッチンを置きました。寝室の上のロフトでリモートワークするご主人、リビングで遊ぶ娘たち、その気配を背中に感じながら奥様はミシンを踏みます。

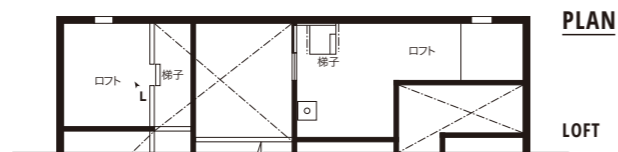
ロフトを除いた総床面積が25坪に満たないのは、「ただの〃箱〃があれば余分なスペースはいらない」「彩りは住むなかで自分たちでつくればいいから」と、未来へ向けた足し算を見越して、前向きに引き算した結果です。時を経ながら体に心に馴染むことをその過程も含めて楽しむには、器は無垢でプレーンでしなやかな方がいいと夫妻は知っているからです。

紙を書きました。20数年後、偶然同じホテルに泊まった奥様の親友から、HOTEL DELAVIGNE（ぶどうの木）と記された同じ封筒の手紙がこの家に届きました。あらゆる方向へつるをのびながら実るぶどうは繁栄の象徴とされます。あのホテルのように、ここへも人のつながりが運ばれ、そのつながりが実を結んでいくように、夫妻はこの家をDELA VIGNE（ぶどうの木の小屋）と呼んでいます。





N 大窓の前に、近くで見つけた柱状の石を見つけ、沓脱石として置いた。庭へ出るのが余計に楽しくなる。 **O** 夏は後ろの森から蝉時雨が降ってくる。シカやキジやタヌキも暮らすとか。夜は星空がきれいな場所だ。



DATA	数値	換算
敷地面積	1169.47㎡	(353.06坪)
延床面積	80.11㎡	(24.18坪)
1F面積	80.11㎡	(24.18坪)
ロフト面積	26.09㎡	(7.88坪)

工法 / 木造在来軸組工法 基礎 / ベタ基礎 構造材 / 柱: 米マツ4寸角、梁: 米マツ、土台: ヒノキ4寸角 断熱材 / 天井: フェノバード90mm+60mm、壁: 高性能グラスウール100mm、基礎: 押出法ポリスチレンフォーム90mm、主な外装仕上げ / 屋根: ガルバリウム鋼板立ハゼ葺き、外壁: スギ板タテ張り・アンティークレンガ その他: スギ 主な内装仕上げ / 天井: 漆喰・ソイルペイント、壁: 漆喰・ソイルペイント、床: スギ材 その他: 大谷石(薪ストーブ下) 開口部 / 樹脂トリプルガラス(室内側: Low-E アルゴンガス入り) キッチン / 造作 キッチン熱源 / IHクッキングヒーター バスルーム / TOTO サザナ 暖房の種類 / 薪ストーブ



I アトリエの背後にカーテンで仕切っただけの靴収納を設けた。 **J・K** 奥様の仕立てる洋服のブランド名は yurayumaiyu という。娘さんが呟いた言葉からとったその名には、「つくり手の価値観を押し付けず、その人のための洋服を」という思いが、その優しい響きとなって表れている。 **L** ロフトに設けたご主人のリモートワークスペース。この先の必要に応じて、敷地の開いた場所に別棟を設けることも考えている。 **M** 母屋とアトリエの間の土間は、奥様のデザインした服の展示スペースにした。



Owner:
Cさんご家族

Q1. 家づくりで一番大切にしたいことは?

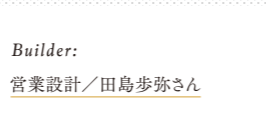
A 小さな家で、家族やここを訪れる人とのつながりに実りが生まれるように。

Q2. こうしておいてよかった、と思ったことは?

A つくり込み過ぎずプレーンな箱にしたこと。最初は抵抗があったアトリエの外壁のレンガ。玄関土間。

Q3. このビルダーさんに頼んでよかったことは?

A 思いの丈に耳を傾け、私たちの願いを解きほぐし、プロとして最善の提案をしてくれたこと。



Builder:
営業設計 / 田島歩弥さん

Q1. この家のコンセプト、ポイントは?

A 暮らしやすいシンプルな平屋、信州らしい里山の景色に馴染む外観。

Q2. この家の見どころを3つに絞るなら。

A 雄大な景色と暮らす大開口の窓。家族の気配を感じられるゾーニング。時の流れの中で自由に変化させられる余白。

Q3. 家づくりで一番大切にしていることは?

A 住まい手に寄り添い想像以上の提案をすること。